

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

是も今は昔、ある僧、人のもとへ行きけり。酒などすすめけるに、氷魚^{*ひお}はじめて出できたりければ、あるじ、めづらしく思ひて、もてなしけり。あるじ、よ⁽¹⁾うの事ありて、うちへいりて、また出でたりけるに、この氷魚⁽¹⁾の、ことの外^{ほか}にすくなくなりたりければ、あるじ、いかにと思へども、いふべきやうもなかりければ、物がたりしゐたりける程に、この僧の鼻より、氷魚の一つ、ふと出でたりければ、あるじ、あやしうおほえて、その鼻より、氷魚の出でたるは、いかなる事にかといひければ、取りもあへず、このごろの氷魚は、目鼻より降り候^{あそひ}ふなるぞといひたりければ、人皆「は」とわらひけり。

〔宇治拾遺物語〕

問1 本文には、あるじと僧の会話の部分がある。あるじの言葉と僧の言葉の、それぞれ初めと終わりの三文字ずつを書き出しなさい。(句読点は含まない)

問2 傍線部(1)の「の」と同じように使われているものは、次の(ア)～(エ)の中のどれか。最適なものを選びなさい。

*氷魚 〓 あゆの稚魚。長さ二～三センチ。

- (ア)自分の思₁うことをそのまま言う。
(イ)鳥が飛ぶ₂の見える。
(ウ)きのう梅₃の花が咲いた。
(エ)いいの₄わるいのと、うるさいことだ。

問3 傍線部(2)の「いかにと思へども」の意味として最適なもの、次の(ア)～(エ)の中から選びなさい。

- (ア)困ったことだと思っただけども (イ)もつともなことだと思っただけども
(ウ)いけないことだと思っただけども (エ)どうしたのかと思っただけども

問4 傍線部(3)の「取りもあへず」の意味として最適なものを、次の(ア)～(エ)の中から選びなさい。

- (ア)水魚を取ることでもできないで (イ)様々な考えをめぐらせて
(ウ)何はともあれすぐさま (エ)取る道具もないので

問5 傍線部(4)で、なぜ人が皆笑ったのか。簡潔に答えなさい。

《補充問題》 古文

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

ある河のほとりに、牛一匹、ここかしこへ餌食えじきをもとめありき侍りしに、蛙これを見て心に「思ふやう、「わが身をふくらしなば、必ずもやあの牛のせいほどなりなん」と思ひて、きつと伸びあがり、身の皮をふくらして、子どもにむかつて、「今はこの牛のせいほどになりけるや」と尋ねければ、子どもあざ笑ひていはく、いまだその位なし。^{*}はばかりながら、御辺ごへは牛に似たり給はず。正しくかぶらのなりにこそ見え侍りけれ。⁽²⁾御皮のちぢみたる所侍る程に、いますこしふくれさせ給はば、あの牛のせいになり給ひなんと申しければ、蛙答えて申さく、「⁽³⁾それこそいとやすき事なれ」といひて、力およびゑいやつと身をふくらしければ、思ひの外に皮にはかに破れて、⁽⁴⁾腸出で空しくなりにけり。

〔伊曾保物語〕〈蛙と牛のこと〉

問1 傍線部(1)「思ふやう」を、現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

問2 本文中で「子ども」の言葉はどこからどこまでですか。初めと終わりの三文字ずつを抜き出さない(句読点は含まない)。

*ふくらしなば＝ふくらませたら。
*はばかりながら＝恐れ多いことながら。
*御辺＝あなた。

問3 傍線部(2)「こそ見え侍りけれ」では、係助詞「こそ」があることによって、文末の助動詞「けり」が已然形の「けれ」となっています。このような法則を何といいますか。

問4 傍線部(3)「それ」の指す内容を現代語で簡潔に書きなさい。

問5 傍線部(4)「空しくなりにけり」の現代語訳として最適なものを次の中から選びなさい。

(ア)空っぽになってしまった。

(イ)空に飛んでいってしまった。

(ウ)悲しさでいっぱいになってしまった。

(エ)死んでしまった。

問6 この物語で、筆者が伝えたかったこととして最適なものを次の中から選びなさい。

(ア)他人を目標に努力を続けることが人生において大切だ。

(イ)他人のいうことをむやみやたらに信用してはいけない。

(ウ)自分自身の力量を常にわきまえた上で行動すべきだ。

(エ)他人の真似ばかりしていると、正しい評価は得られない。